

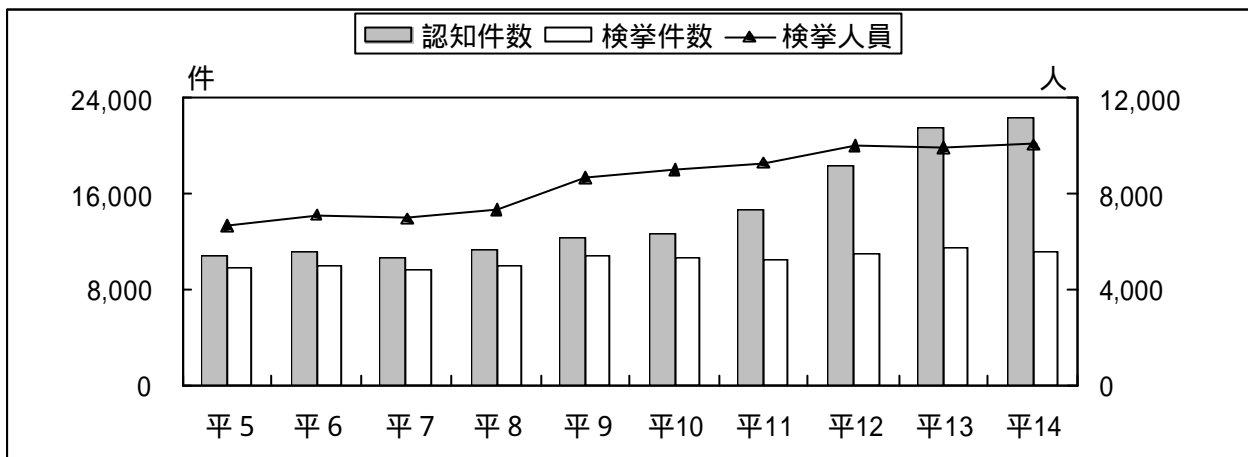
## 2 重要犯罪

### (1) 重要犯罪の認知及び検挙状況

平成14年中の重要犯罪の認知件数は2万2,294件、検挙件数は1万1,186件、検挙人員は1万29人である。過去10年間の推移をみると、認知件数は2倍以上と大きく増加したが、検挙件数は1万件前後で推移している。検挙人員は増加傾向にある(図表1-5)。

罪種別にみると、強盗と強制わいせつの認知件数の増加が大きく、ともに5年間で2倍以上に増加した(図表1-6)。

図表1-5 重要犯罪の認知・検挙状況の推移(10年間)



年次 区分	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	10,903件	11,103	10,652	11,286	12,366	12,725	14,682	18,281	21,530	22,294
検挙件数	9,701件	9,891	9,643	9,925	10,798	10,700	10,491	11,049	11,418	11,186
検挙人員	6,646人	7,102	6,969	7,323	8,654	8,980	9,307	9,954	9,905	10,029
検挙率	89.0%	89.1	90.5	87.9	87.3	84.1	71.5	60.4	53.0	50.2

図表 1 - 6 重要犯罪の罪種別認知・検挙状況の推移

年次		平10	平11	平12	平13	平14
区分						
重要犯罪	認知件数	12,725件	14,682	18,281	21,530	22,294
	検挙件数	10,700件	10,491	11,049	11,418	11,186
	検挙人員	8,980人	9,307	9,954	9,905	10,029
	検 挙 率	84.1%	71.5	60.4	53.0	50.2
殺人	認知件数	1,388	1,265	1,391	1,340	1,396
	検挙件数	1,356	1,219	1,322	1,261	1,336
	検挙人員	1,365	1,313	1,416	1,334	1,405
	検 挙 率	97.7	96.4	95.0	94.1	95.7
強盗	認知件数	3,426	4,237	5,173	6,393	6,984
	検挙件数	2,614	2,813	2,941	3,115	3,566
	検挙人員	3,379	3,762	3,797	4,096	4,151
	検 挙 率	76.3	66.4	56.9	48.7	51.1
放火	認知件数	1,566	1,728	1,743	2,006	1,830
	検挙件数	1,369	1,458	1,372	1,540	1,234
	検挙人員	693	750	789	783	815
	検 挙 率	87.4	84.4	78.7	76.8	67.4
強姦	認知件数	1,873	1,857	2,260	2,228	2,357
	検挙件数	1,652	1,369	1,540	1,404	1,468
	検挙人員	1,512	1,392	1,486	1,277	1,355
	検 挙 率	88.2	73.7	68.1	63.0	62.3
略取・誘拐	認知件数	221	249	302	237	251
	検挙件数	211	244	272	211	215
	検挙人員	141	164	180	179	173
	検 挙 率	95.5	98.0	90.1	89.0	85.7
強制わいせつ	認知件数	4,251	5,346	7,412	9,326	9,476
	検挙件数	3,498	3,388	3,602	3,887	3,367
	検挙人員	1,890	1,926	2,286	2,236	2,130
	検 挙 率	82.3	63.4	48.6	41.7	35.5

## (2) 殺人事件の状況

平成14年中の殺人事件の認知件数は1,396件、検挙件数は1,336件、検挙人員は1,405人である。最近5年間の推移をみると、認知件数、検挙件数、検挙人員とも1,300前後で推移しており、検挙率は95%前後を維持している（図表1-7）。

図表1-7 殺人事件の認知・検挙状況の推移

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	1,388件	1,265	1,391	1,340	1,396
検挙件数	1,356件	1,219	1,322	1,261	1,336
検挙人員	1,365人	1,313	1,416	1,334	1,405
検 挙 率	97.7%	96.4	95.0	94.1	95.7

### ア 捜査本部設置事件の状況

平成14年中の捜査第一課又は国際捜査担当課の主管する捜査本部設置事件（殺人、強盗殺人等殺人の絡む事件のうち刑事部長（警視庁においては組織犯罪対策本部長も含む）を捜査本部長とする捜査本部を設置した事件をいう。）は176件である。最近5年間の推移をみると、設置件数は11年にいったん減少したものの、12年から増加傾向となっている。解決率については、13年から上昇傾向にあり、14年は79.5%となった（図表1-8）。

また、14年中の暴力団犯罪捜査担当課の主管する一般市民等の被害にかかる殺人の絡む捜査本部設置事件は19件で、解決件数は17件、解決率は89.5%となっている。

図表1-8 捜査本部設置・解決状況の推移

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14	暴力団犯罪捜査 主管(注2)
設置件数	140件	135	152	165	176	19
解決件数	114件 (100)	106 (97)	102 (96)	122 (104)	140 (115)	17 (17)
解 決 率	81.4% (71.4)	78.5 (71.9)	67.1 (63.2)	73.9 (63.0)	79.5 (65.3)	89.5 (89.5)

注1：解決件数欄の（ ）内は、その年に捜査本部を設置した事件の解決件数と解決率を内数で示した。

注2：暴力団犯罪捜査担当課において設置したものを外数とした。

【事例1】三島市における女性殺人事件（静岡）

1月23日、男(30)は、道路脇の工事現場において、女性に所携の灯油を浴びせかけた上、火を放って殺害した（8月13日検挙）。

【事例2】消費者金融における強盗殺人・放火事件の検挙（青森）

平成13年5月8日、男(43)は、消費者金融において、所携のガソリンを店舗内にまいて金員を要求したが、これを拒否されたことから、同店舗に放火し、同店従業員5名を殺害、4名を負傷させた（3月4日検挙）。

【事例3】北方町における女性殺人・死体遺棄事件等の検挙（佐賀）

平成元年1月27日、男(当時26)は、路上に停車中の車両内において、女性の首を絞めて殺害し、その死体を山林に遺棄した。他に2名の女性を殺害、遺棄した（6月11日検挙）。

【事例4】品川区における夫婦強盗殺人事件（警視庁）

8月31日、中国人の男(25)は、店舗併用住宅内において、夫婦を刃物で殺害し、現金4万7,000円等を強取した（9月19日検挙）。

【事例5】世田谷区における国会議員殺人事件（警視庁）

10月25日、男(48)は、議員を自宅敷地内において刃物で殺害した（10月26日検挙）。

イ 保険金目的殺人事件

平成14年中の保険金目的殺人事件の検挙件数は11件であり、近年、増加傾向にある（図表1-9）。

図表1-9 保険金目的殺人事件の検挙件数の推移

年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
検挙件数	6件	8	9	9	11

注：未遂を含む。

【事例1】守口市における男性殺人事件（大阪）

4月6日、男(46)は、女(34)からの依頼を受け、その夫を殺害して生命保険金を詐取しようと企て、路上において刃物で同人の背部等を突き刺して殺害した（4月7日検挙）。

【事例2】元看護婦等による保険金目的連続殺人事件の検挙（福岡）

平成11年3月27日、元看護婦の女(42)他3名は、うち1名の夫を殺害して生命保険金を詐取しようと企て、同人を殺害した。また、平成10年1月24日、別の1名の夫を同様の目的で殺害するなどした（4月28日検挙）。

(3) 強盗事件の状況

平成14年中の強盗事件の認知件数は6,984件、検挙件数は3,566件、検挙人員は4,151人である。最近5年間の推移をみると、認知件数、検挙件数、検挙人員のいずれも増加傾向にある(図表1-10)。

また、銃器発砲を伴う強盗事件は7件発生しており、最近5年間では、毎年10件前後で推移している(図表1-11)(路上強盗の状況については、21ページ参照)。

図表1-10 強盗事件の認知・検挙状況の推移

年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	3,426	4,237	5,173	6,393	6,984
検挙件数	2,614	2,813	2,941	3,115	3,566
検挙人員	3,379	3,762	3,797	4,096	4,151
検 挙 率	76.3	66.4	56.9	48.7	51.1

図表1-11 対象機関別の銃器発砲を伴う強盗事件の認知件数の推移

年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
金 融 機 関	2件	3	5	7	0
消 費 者 金 融	0	0	0	0	0
現 金 輸 送 車	3	4	3	2	3
質 屋	0	0	0	0	2
パ チ ン コ 店	0	0	1	0	0
パチンコ景品交換所	1	0	0	0	0
ゲ ー ム 喫 茶	0	0	1	0	0
カ ジ ノ ク ラ ブ	0	0	1	0	0
麻 雀 店	0	0	0	0	0
深 夜 ス ー パ ー	0	1	0	0	0
ス ー パ ー 事 務 所 等	2	0	1	0	1
レ ス ト ラ ン	0	0	0	0	0
路 上 強 盗 等	1	1	1	0	0
民 家 侵 入 強 盗	1	0	2	0	0
そ の 他	1	0	0	4	1
計	11	9	15	13	7

## ア 金融機関対象強盗事件

平成14年中の金融機関対象強盗事件の認知件数は141件、検挙件数は111件である。

13年には、青森県で発生した消費者金融における強盗殺人・放火事件（8ページ 捜査本部設置事件の状況 事例2参照）と同様に、店舗内にガソリン等をまいて金員を要求するといった手口の事件が多発し、金融機関対象強盗の認知件数も前年の約2倍と急増したが（+94件）前記青森県の事件の被疑者を検挙した翌14年には、大幅に減少した（図表1-12、13）。

図表1-12 金融機関対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	161件	120	135	229	141
検挙件数	117件	97	92	147	111
検 挙 率	72.7%	80.8	68.1	64.2	78.7

図表1-13 対象機関別認知・検挙状況の比較

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14	
銀 行	認知件数	33件	32	27	30	27
	検挙件数	30件	30	25	28	26
	検 挙 率	90.9%	93.8	92.6	93.3	96.3
郵便局	認知件数	92	51	86	152	86
	検挙件数	60	44	52	87	58
	検 挙 率	65.2	86.3	60.5	57.2	67.4
農協等	認知件数	12	11	7	13	10
	検挙件数	8	5	4	9	8
	検 挙 率	66.7	45.5	57.1	69.2	80.0
信金等	認知件数	24	26	15	34	18
	検挙件数	19	18	11	23	19
	検 挙 率	79.2	69.2	73.3	67.6	105.6

### 【事 例】 船橋市内の銀行における強盗事件（千葉）

5月8日、男(59)は、銀行において、対応した行員に果物ナイフを突き付けるなどして脅迫し、現金約5,000万円を強取した（同日検挙）。

## イ 現金輸送車対象強盗事件

平成14年中の現金輸送車対象強盗事件の認知件数は8件、検挙件数は5件である（図表1 - 14）。

図表 1 - 14 現金輸送車対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	10件	12	8	9	8
検挙件数	12件	4	2	4	5
検 挙 率	120.0%	33.3	25.0	44.4	62.5

【事 例】 横浜市におけるけん銃使用現金輸送車襲撃事件（神奈川）

8月21日、男(54)他2名は、金融機関の駐車場において、現金等を車両に積み込み中の警備員2名に対し、けん銃を発射して両名に重傷を負わせ、現金約1,000万円等を強取した（8月28日検挙）。

## ウ 深夜スーパーマーケット対象強盗事件

平成14年中の深夜スーパーマーケット対象強盗事件（注）の認知件数は468件、検挙件数は225件である。最近5年間の推移をみると、認知件数は、13年までは増加傾向にあったのが、14年には減少に転じた（図表1 - 15）。

（注）深夜スーパーマーケット対象強盗事件とは、午後10時から翌日午前7時までの間に、営業しているコンビニエンスストア等のスーパーマーケットの売上金等を目的として敢行された強盗事件をいう。

図表 1 - 15 深夜スーパーマーケット対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分 \ 年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	308件	340	394	527	468
検挙件数	149件	173	188	163	225
検 挙 率	48.4%	50.9	47.7	30.9	48.1

【事 例】 福岡市内のコンビニエンスストアにおける持凶器強盗事件（福岡）

5月7日、男(21)は、コンビニエンスストアにおいて、アルバイト店員に所携の包丁を突き付け、「金を出せ」等と脅迫し、同店員が差し出した現金5万円を強取した（5月9日検挙）。

## エ 侵入強盗

平成14年中の侵入強盗の認知件数は2,436件、検挙件数は1,314件、検挙人員は1,134人である。最近5年間の推移をみると、認知件数は約2倍に増加しているが、検挙件数は1.5倍の増加となっている。手口別では、上がり込みの認知件数が2倍以上と大きく増加している(図表1-16)。

図表1-16 侵入強盗の認知・検挙状況の推移

区分		年次	平10	平11	平12	平13	平14
侵入強盗	認知件数		1,314件	1,649	1,786	2,335	2,436
	検挙件数		897件	1,020	1,024	1,116	1,314
	検挙人員		854人	993	982	1,094	1,134
	検挙率		68.3%	61.9	57.3	47.8	53.9
上がり	認知件数		617	872	919	1,210	1,371
	検挙件数		407	510	541	536	721
	検挙人員		366	471	462	502	602
	検挙率		66.0	58.5	58.9	44.3	52.6
押し入り	認知件数		173	226	212	305	312
	検挙件数		107	105	86	133	126
	検挙人員		113	125	112	124	121
	検挙率		61.8	46.5	40.6	43.6	40.4
居直り	認知件数		105	148	202	198	201
	検挙件数		84	97	111	105	106
	検挙人員		77	103	110	112	95
	検挙率		80.0	65.5	55.0	53.0	52.7
その他	認知件数		419	403	453	622	552
	検挙件数		299	308	286	342	361
	検挙人員		298	294	298	356	316
	検挙率		71.4	76.4	63.1	55.0	65.4

注:「その他」には、金融機関強盗を含む。

### 【事例1】少年らによる連続強盗致傷等事件(福岡)

1月21日、男(16)他1名は、住宅に侵入し、女性を殴打するなどして現金約7万円を強取し、その際、同人に傷害を負わせた。さらに、同様の手口で強盗致傷等数件を敢行していた(3月26日検挙)。

### 【事例2】韓国人等グループによる強盗致傷事件(福島)

1月30日、韓国人の男(38)他数名は、住宅に侵入し、家人をガムテープで縛るなどして現金約120万円等を強取し、その際、同人らに傷害を負わせた(1月31日検挙)。

#### (4) 略取・誘拐事件の状況

平成14年中の略取・誘拐事件の認知件数は251件、検挙件数は215件、検挙人員は173人である。最近5年間の推移をみると、認知件数、検挙件数、検挙人員いずれもほぼ一定であり、検挙率は90%前後を維持している（図表1-17）。

図表1-17 略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	221件	249	302	237	251
検挙件数	211件	244	272	211	215
検挙人員	141人	164	180	179	173
検 挙 率	95.5%	98.0	90.1	89.0	85.7

また、平成14年中の身の代金目的略取・誘拐事件の認知件数は10件、検挙件数は10件、検挙人員は35人である（図表1-18）。検挙件数10件、検挙人員35人のうち、中国人（中国系マレーシア人を含む。）による件数、人員は6件、18人で、ともに全体の過半数を占めている（30ページ 図表1-43参照）。

図表1-18 身の代金目的略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	8件	10	11	10	10
検挙件数	8件	9	12	10	10
検挙人員	22人	24	23	24	35

#### 【事例1】高根沢町における中国人女性対象身の代金目的略取等事件（栃木）

4月24日、中国人の男(22)と韓国人の男(30)ら3名は、中国人女性をその勤務先から車で連れ去り、姉に対して身の代金を要求した（5月6日検挙）。

#### 【事例2】足立区における中国人男児対象身の代金目的拐取等事件（警視庁）

6月6日、中国人の女(25)他6名は、自宅付近で遊んでいた中国人男児を誘い出して車で連れ去り、両親に対して身の代金を要求した（6月8日検挙）。

#### 【事例3】糸魚川市における幼児略取等事件（新潟）

6月4日、男(20)は、知人の女性の居宅から同女の妹を車で連れ去った（6月5日検挙）。

#### 【事例4】北島町における幼児略取等事件（徳島）

10月16日、男(31)は、大型ショッピングセンター内で遊んでいた幼児を車で連れ去った(10月28日検挙)。

(5) 性犯罪の状況

平成14年中の強姦の認知件数は2,357件、強制わいせつの認知件数は9,476件である。最近5年間の推移をみると、ともに増加傾向にあり、特に強制わいせつは2倍以上に増加している。

一方、強姦の検挙件数は1,468件、強制わいせつの検挙件数は3,367件である。最近5年間の推移をみると、強姦は1,500件前後、強制わいせつは3,500件前後で推移している（図表1-19）。

図表1-19 強姦、強制わいせつの認知・検挙状況の推移

区分		年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
強姦	認知件数		1,873件	1,857	2,260	2,228	2,357
	検挙件数		1,652件	1,369	1,540	1,404	1,468
	検挙人員		1,512人	1,392	1,486	1,277	1,355
強制わいせつ	認知件数		4,251	5,346	7,412	9,326	9,476
	検挙件数		3,498	3,388	3,602	3,887	3,367
	検挙人員		1,890	1,926	2,286	2,236	2,130

【事 例】単身者を対象とする連続強姦等事件の検挙（警視庁・千葉）

平成13年7月、男(38)は、マンションに侵入し、在室中の女性を脅迫した上、強姦した。さらに、同様の手口で強姦等数件を敢行していた（3月19日検挙）。

(6) 配偶者による暴力事件

平成14年中の配偶者（内縁関係にある者を含む。）による暴力についてみると、殺人、傷害及び暴行の検挙件数は1,666件である。このうち、夫（内縁関係にある者を含む。）による暴力については1,528件で、全体の91.7%を占めている（図表1-20）。

図表1-20 配偶者による殺人、傷害並びに暴行事件の検挙件数の推移

区分		年次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
殺 人			189件	170	197	191	197
	うち 夫によるもの		129	105	134	116	120
傷 害			295	403	888	1,097	1,250
	うち 夫によるもの		273	375	838	1,065	1,197
暴 行			35	36	127	156	219
	うち 夫によるもの		33	36	124	152	211
合 計			519	609	1,212	1,444	1,666
	うち 夫によるもの		435	516	1,096	1,333	1,528